

苗冷蔵処理によるプリムラ・マラコイデスの開花促進方法

[研究のねらい]

花壇苗市場では、花の咲いていない苗（ラベル苗）よりも開花した苗（花付き苗）が高値で取引されています。プリムラ・マラコイデスの場合、ラベル苗の出荷時期である年内に花付き苗を出荷できれば有利販売が可能と考えられます。プリムラ・マラコイデスは低温により開花が促進されるため、苗冷蔵処理を用いた開花促進方法について明らかにします。

[研究の成果]

- ① 苗冷蔵処理には本葉 7.5 枚以上に育苗したセル苗を使用します（図表省略）。
- ② 苗冷蔵温度は 8℃とし、処理期間中は蛍光灯による 24 時間連続照明（200lux 程度）を行います。30 日間の苗冷蔵処理を行うことにより、開花は安定的に促進されます（図 1、写真 1）。
- ③ 苗冷蔵処理後から発蕾時期までの高温遭遇が異常開花を誘発します。苗冷蔵処理は 9 月中旬から開始し、気温が比較的冷涼となる 10 月中旬以降に出庫・鉢上げを行うことで秀品株率が向上します（図 2）。
- ④ 苗冷蔵処理後のジベレリン施用により花柄の伸長が促進され、開花時の苗品質が向上します（図表省略）。

[成果の活用面・留意点]

- ① 苗冷蔵処理を行うことにより、早期開花による高付加価値苗を 11 月下旬から年内にかけて生産することができます。

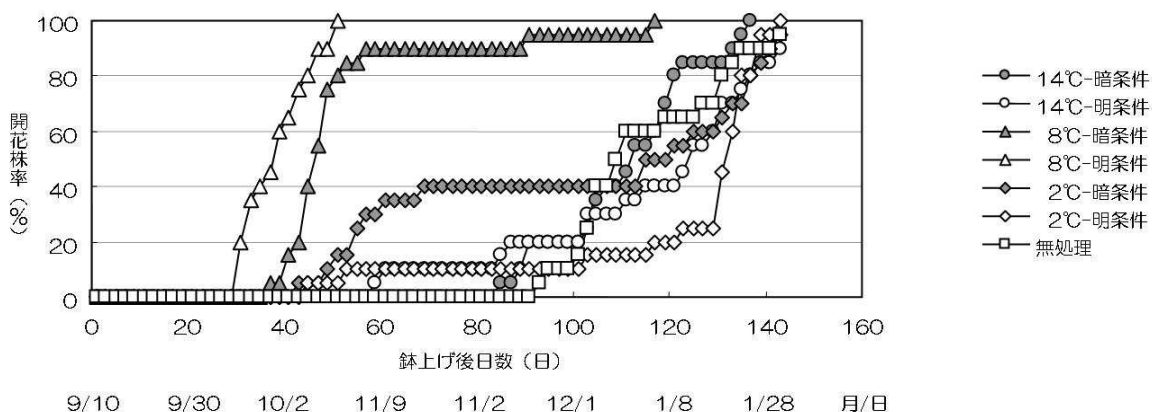


図 1 苗冷蔵時の冷蔵温度・光条件と開花株率の推移 (2004 年)

注) 苗冷蔵処理はいずれの処理区も 30 日間実施

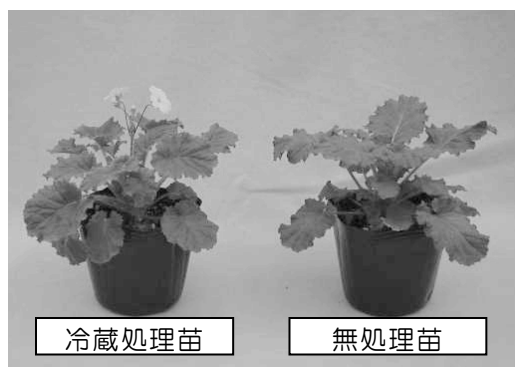


写真 1 開花状況の比較 (鉢上げ後 40 日目)
(2006 年 11 月 27 日撮影)

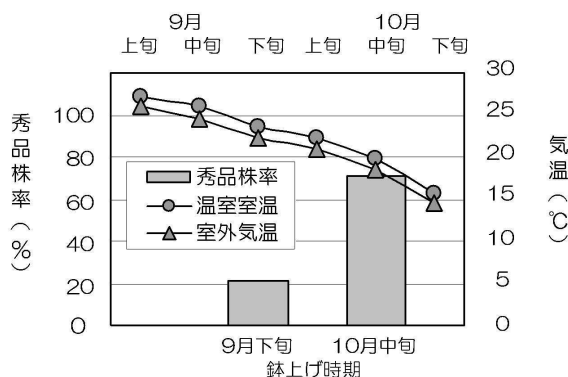


図 2 鉢上げ時期と秀品株率の関係 (2005 年)

実施年度：平成 16～18 年度

担当者：矢部泰弘・島浩二・川西孝秀